



# なでしこ



令和4年(2022年)9月9日

No. 15

## 『家庭学習の習慣化で「学ぶ力」を育てましょう』

校長 中村 真理子

先日の「全国学力・学習状況調査」の結果を受けて、本校では子どもたちの学ぶ力の向上のために、教職員一丸となって様々な取組を行っています。(「我が校の学ぶ力向上の取組」の詳細は、「学校だより なでしこ No.12」及び本校ホームページをご覧ください。)

今回の調査結果から、本校の課題として、『家庭学習の時間の確保や習慣化・学習時間の長さ』などがありました。この課題については、保護者・地域の皆さんと連携して、克服していく必要があると考えています。今号では、特に「家庭学習」の大切さについて、保護者・地域の皆さんと一緒に考えていきます。



### 「学ぶ力」ってどんな力ですか？

- 意欲や興味・関心
- 挑戦する気持ち
- ねばり強く取り組む姿勢

学びに向かう意欲や姿勢



- 自分で内容や時間を決める
- 自分で内容の軽重を判断する
- 自分で取り組む順序を決める等

自分で考えた学び方

これらは草津小の子どもたちにとって、将来にわたり、自分で考え、判断して、課題を解決したり、いろいろなことに積極的に取り組んだりするために必要な力です。

### 【子どものタイプ別 家庭学習の取り組み方】

取りかかるまでに、  
時間がかかるタイプ



始めても、なかなか集中  
できないタイプ



「今日は、この時間に  
する!」と決めて、家族で  
声をかけあってみましょ  
う。

「20分ずつ」など、短い時間  
に区切って計画してみましょう。  
タイマー等をセットして、「この  
時間だけはがんばる。」など  
とするのも効果的。



### まず、毎日の学校の家庭学習を、 しっかり取り組んでみよう

ご家庭で学校の家庭学習以外に、新しいことに取り組むこともよいことです。しかし、まず学校の家庭学習に対する取り組み方を、レベルアップしてみましょう。

### 【毎日の家庭学習に対する取組のレベル】

担任は、毎日の授業で学んだことをしっかり定着させるためにドリル等の家庭学習を出しています。家庭学習を、まずしっかりやるだけで、力がどんどんついていきます。

今の家庭学習への取り組み方は、右表のどのレベルでしょうか。家庭学習の取り組み方のレベルを少し上げるだけで、子どもたちの力がぐんと伸びていきます。

2学期から、さらに学ぶ力を伸ばしていきたいという人は、右表「レベル3」まで行うことがおすすめです。自分でポイントを書くことで、自分に印象づけることができ、基礎・基本の力だけでなく、自ら課題を見つけて取り組む力を伸ばすこともできます。

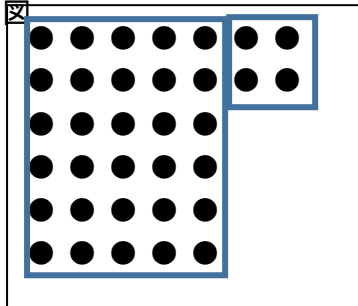
レベル0	●家庭学習をやらない。 ●「間に合わない」「わからない」と、理由をつけて、ドリル等の答えを写すことがある。
1	●自分で解いて、丸つけまではするけれど、間違えたところは、そのままにしている。
2	●丸付けの後に、間違えたところのやり直しをきちんとしている。
3	●「間違えたところ」や「わからなかったところ」「今回はできたけれども、大事なところ」などを、教科書等で確かめて、自分でノートなどにポイントを書いている。

# 家族でチャレンジ! 「なぜそうなるのか、自分で説明する問題」

## 【2年生 算数「かけ算」】

けんたさんは、●の かずの もとめ方をつぎの 図と しきで せつ明しました。けんたさんとは ちがう もとめ方で、図と しきを かきましょう。

(けんたさんのもとめかた)



しき

$$6 \times 5 = 30$$

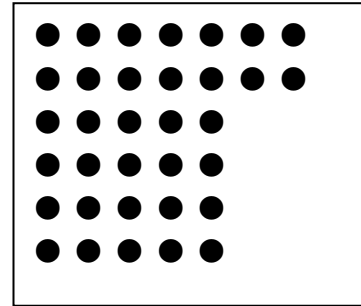
$$2 \times 2 = 4$$

よって、

$$30 + 4 = 34$$

こたえ 34こ

(あなたのもとめかた)



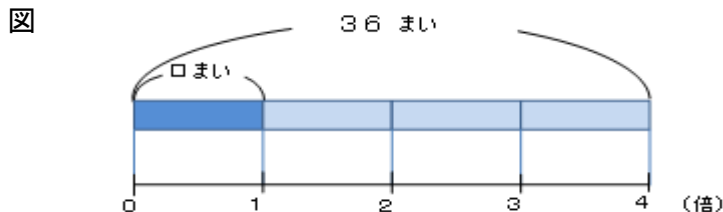
しき

こたえ \_\_\_\_\_

## 【3年生 算数「□をつかった式」】

みさきさんのもっている切手の数は、ひろきさんの4ばいで、36まいです。ひろきさんは、切手を何まいもっていますか。このことを、ひろきさんのもっている切手の数を□まいとして、式にあらわしましょう。

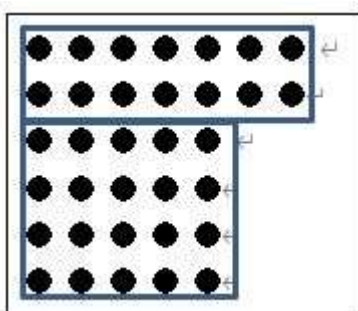
また、□にあてはまる数をもとめましょう。



何を問われているのか、問題の意味を自らわかろうとする力が必要です。



## 【2年算数 解答例】



$$2 \times 7 = 14$$

$$4 \times 5 = 20$$

よって、

$$14 + 20 = 34$$

こたえ 34こ

## 【3年算数 解答例】

$$\square \times 4 = 36 \quad \square \text{にあてはまる数は } 9$$

単に、計算ができればよいのではなく、式の意味を言葉や数を用いて自分で考えて書くことが求められます。毎年、6年生の初めに「全国学力・学習状況調査」を受けますが、低学年の頃から、自らの考えをしっかりとって説明する力を育てていくことを大切にして、学習を進めています。